

環境モデル都市 円卓会議 会議録

部会名	環境学習円卓会議		記録者	浮池(資料館)
開催回数	第1回			高嶋(相思社)
開催日時	平成21年5月25日(水)19時50分～21時10分			
開催場所	市公民館3F洋室			
出席者	所属	名前	所属	名前
	推進委員	大嶽	推進委員	久木田
	推進委員	田中	相思社	高嶋
	ほっとはうす	加藤	水俣自然学校	三村
	環境センター	宇田津	環境対策課	久木田
	水俣病資料館	浮池	農林水産課	本田
	企画課	栄永	市環境モ推進課	草野
	出席者 計			12 名
欠席者	推進委員	山下	教育旅行プランニング	
	欠席者 計			2 名
<p>・自己紹介のあと、進行役を田中氏にお願いした。田中氏から、環境モデル都市のイメージ、水俣における将来目指したいイメージということで、一言ずつ発言。</p> <p>1 将来目指したい水俣のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車でもどこでもいけるまち←山手は難しいのではという意見有り ・山間部に住んでも自分で町まで出てこれる。 ・住んでいる人が豊かなまち。地産地消 ・モノ・人・自然が大事にされるまち ・様々な年齢の人たちが一緒に暮らせる、助け合いの暮らし。 ・グループハウスなどの福祉の充実したまち ・水俣病のことが語り継がれるまち。福祉という言葉を使わなくても、昔から ・あった助け合いがあるまち。 ・第1次産業を大切にすまち ・忙しく働かなくても、貧乏でも楽しくらせるまち ・人に対して優しいまちづくりをしていかなければ。 新エネルギー（水で走る車、地熱など）の技術革新が目覚ましい、活用していくことも必要。自転車と歩くまちづくり。地産地消、顔の見える範囲。 沢山のアイデアはある。どう生かしていくか。 <p>2 環境学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動計画は外から来た人たちを対象としているが、市内の人たちに対するアプローチも大事ではないか。 ・例えば、ごみ分別を行っていることは、他都市の人から見るとすばらしいこと。市民は分かっているのではないか。 ・今のごみ分別の方法では、社会人など出せない人もいる。そのあたりを改善する方法も考えていかなければ。 ・分別の日には、企業が特別休暇をできる仕組みがあれば。 ・中学生が分別に参加しているが、学校の取り組みによってはかなりの差が出る。 				

ただそこにいるだけという場合もある。

- ・内向きの環境学習という点では手薄になっている。分別に小さい子(3、4歳)の子どもが参加してもよい。学校任せではだめ。
- ・幼児の時の体験は大事。
- ・子どもを見て大人も変わる。
- ・環境学習としてはやっていることは色々あるのに、ISOだけが一人歩き。電気代、水道代のことばかり。
- ・ISOの考え方は、「自分のできることからやっていく」なので、その域を超えない。形式の追われすぎているのでは。
- ・ごみ分別は感覚を身に付けることが大事。

3 今後の方針・進め方について

- ・外向きの環境学習（人材育成等）の論議の前にまずは市民の環境に関する学習を行うためにという視点からはじめていく。
- ・他の部会との関わりも大きいので、情報の提供、連携を図っていく。

*次回までに、市内向けの環境学習について、それぞれ考えておく。

平成21年7月 ごろ